

## 2024\_1125「浅間山に沈む金星（天体動画）」日々の理科 3763号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

「金星」は、彗星、流星、超新星などの「時限例外」を除けば、太陽、月に次いで地球から見える3番目に明るい天体です。太陽に近い惑星なので、「日没直後」が「日の出直前」にか見えません。日没直後の金星は「宵の明星（よいのみょうじょう）」、日の出直前の金星は「明けの明星（あけのみょうじょう）」と呼ばれています。つまり金星は真夜中には決して見ることはできません。また、宵の明星を見ることのできた翌朝に、明けの明星が見える・・・ということもないのです。

今の時期、夕方の西の空に見えている「超明るい星」が金星です。「一番ぼ〜し、見〜つけた！」の「一番星」は、大抵は金星です。金星は恒星とはちがう独自の動きをしますが、その独自運動の大きさは、1時間や2時間で実感できるようなものではありません。基本的には恒星と同じように、地球の自転による日周運動で動いて見えます。宵の明星の場合、「左上から右下」に向かって沈んでいくように見えます。

金星の地平高度が $10^\circ$ （腕を伸ばして握りこぶし1個分）を切ったら、間もなく沈むので、沈む一瞬を観察すると良いでしょう。金星が西の空に見えたら、反対側の東の空を見てください。金星ほどではないですが、かなり明るい星が見えます。それは「おおいぬ座のシリウス」です。

(2024年11月下旬／北軽井沢／東京から遠隔観測)

